

令和8年度 放課後児童対策パッケージ指導者研修会 まとめ

令和8年7月12日（日）に田辺スポーツパーク多目的室、7月13日（月）に和歌山市北コミュニティセンターにて研修会を行いました。その様子をお知らせします。

行政説明（生涯学習課・こども未来課）

①生涯学習課

- ・自殺対策推進について
- ・こども性暴力防止法について
- ・放課後子供教室／こどもの居場所づくりについて

②こども未来課

- ・放課後児童クラブと放課後子供教室の連携について
- ・放課後児童パッケージ2026について
- ・和歌山県が実施する放課後児童健全育成事業関連の事業について
- ・ヤングケアラーについて



情報交換会

事例検討「けんかの仲裁」、「本日の講義を聴いて」をテーマにグループで協議しました。その後、グループで出た意見を共有しました。また、協議した内容について、二宮教授から講評をいただきました。すべてのグループで熱心に協議している様子が見られました。ありがとうございました。



講演（和歌山大学 教育学部 二宮 衆一 教授）

「子どもの権利から考える放課後生活—安心してできる居場所づくりと子どもとともにつくる活動—」をテーマに講演していただきました。

1. 子どもの権利条約と放課後生活

子どもの権利の歴史的経緯を説明していただきました。いくつかの変遷はありますが、根幹に「子どもの最善の利益」という理念があることが分かりました。

2. 子ども達に豊かな放課後生活を

放課後とはどのような時間かを子どもの権利の視点から確認しました。安心して生活できる居場所づくりをどのように進めていくのか、事例を各グループで協議をしながら考えを深めました。「ケア」を通じて安心して生活できる居場所をつくり出すことが関わりの基本となることや、「共感的理解者」としての関わり、さらに子ども同士の関係を紡ぐ役割の大切さが分かりました。

3. 子どもたちの放課後生活と遊び

「子どもの権利条約」第31条で示されている余暇の権利について説明していただきました。「余暇の権利」とは「ワクワクする、ドキドキする、楽しい」という経験を保障することということが分かりました。また、学童などで異年齢で遊ぶ際の事例や、工夫についてもお話しいただきました。



情報交換会で出た意見（抜粋）

①けんかの仲裁に関連して

- ・別室で話を聞く
- ・仲裁に入った人をほめる。感謝も。
- ・子ども達が落ち着いて話ができるようになったら周りにルールを変えるように投げかけ、学校生活をより良くする方法を子供が解決策を出す。
- ・思い道理にならない大変さ、解決方法についてしっかり話をしていくことが大切。

②本日の講義を聴いて

- ・一人一人の生活や特性を理解し、指導員同士で子どもについて情報共有をしておくことを大切にしている。
- ・子どもの発信する合図を感じ取り応答する責任を持つ。
- ・子どもの過ごす空間の静と動のスペースを分けることの大切さ。
- ・最近では嫌やめんどくさいと言しか出てこない言葉や文章で気持ちを伝えられない子もいるため、その子の想いを引き出してあげないといけない。
- ・社会性やモラルを教えることも大切。曲げてはいけないところもある。
- ・話を聞くだけでなく寄り添うことが本当に大切だ。
- ・学校や保護者にも活動を知ってもらう。
- ・子どもの目線に立ち子どもの想いに答えていく。
- ・子どもの想いが見える化する。居場所づくりに繋がる。
- ・子どもと一緒にルールを決めるとスムーズ。



アンケート（抜粋）

- ・子どもの目線になって考えること、小さな変化にも目を向ける観察力、寄り添うことの大切さを再確認できた。
- ・「見る」ではなく「看る」。
- ・ケアの応答関係の話が心に残った。
- ・子どもの居場所づくりは子ども達に豊かな放課後生活をの権利にとって大切だとより理解できた。
- ・合図を送ってきたときに応じる。応答する責任を持つことの大切さ。子ども達に豊かな放課後生活をの願いをかなえながら活動する。
- ・子どもが自己尊重や安心でき、充実した生活が送れる居場所作の必要がある。
- ・自分らしくいられる、安心できる、受け入れてもらえる居場所が重要であると知った。
- ・子どもとは対話することで相互に安心できる安全な学童づくりにつながると分かった。
- ・子ども達に豊かな放課後生活をの意見を先に聞くことが大切だと再認識できた。冷静に対応できるように精進したい。
- ・グループワークで色々な方の意見を聞くことで自分では分からないケアやトラブルの対応の仕方、現場側の意見や視点を知ることができた。
- ・低学年から話をあまり聞かないので話を聞く機会をもっともらいたい。
- ・児童個人に対して最善の利益を叶えるのは難しい。時と場合により我慢を強いる必要があるため、学童の保育環境が改善され、支援員の数が増えれば働く側も気持ちにゆとりを持てるので個人への最善の利益が叶えられると思う。
- ・色んな立場、違う地域の話を聞かせてもらえた。新鮮だった。新しい視点を持つことができた。
- ・行政の方と情報交換ができてよかった。
- ・実際に現場で児童に当たっている人から対応例を聞くことができてよかった。
- ・指導員として今感じていることを市の職員の方にも伝わり理解して下さろうとする姿勢がうれしかった。
- ・事例と共に対応方法を伺うことができ役立った。
- ・先生の話が自分の保育を見つめなおす時間になった。
- ・自殺者「児童」の状況などの情報を得ることができた。